# 「四季・植物」44　大豆

学名　Glycine　max　merill
マメ科の一年草
漢名「大豆」の音読み。

## 郷土資料から見た「大豆（だいず）」のあれこれ

大豆は古くから栽培された作物で、マメといえば大豆を指し、古事記にも「豆」の名がある。近年、節分の豆まきの多くはピーナッツを使用するが、節分の起源をたどると大豆を使用することに意味がある。これは大豆が呪力を持ち災厄を払うとされるからであり、中国から伝わった習俗である。

柏崎では、節分の日に煎ったマメを一升桝に入れて神棚に供えた上で、夕方まいた。自分の年齢の数だけ拾って食べると縁起がよい・福が来るといわれる。米山地区ではコゴメの木の箸を使って煎り、子どもは摺粉木棒（すりこぎぼう）を手に「ゴモットモ　ゴモットモ」とはやしながらマメを拾ったという。また、拾った豆を囲炉裏で焼いて一年の天候を占う「豆占（まめうら）」をした。１粒を一ヶ月と見て、黒く焼ければ雨、白く焼ければ晴れ、空気が抜けると風、というが、地域によって多少判断が異なる。

田の畦（あぜ）に大豆を植えると、雑草があまり伸びなく雑草取りをしないですむため、かつてはよく植えられた。収穫は「マメヒキ」と呼ばれ、稲刈り後が収穫時期である。収穫され実を取り去った後の莢（さや）は、馬の飼料となるため俵に詰めて保存された。


参考資料

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 「図説　花と樹の大事典」 | 植物文化研究会・雅麗篇 | 1996 | 「日本大百科全書」 | 小学館発行 | 1994 |
| 「柏崎市史資料集　民俗編」 | 柏崎市史編さん委員会編 | 1986 | 「仏教行事歳時記」 | 第一法規出版 | 1988 |
| 「日本民俗大辞典」 | 吉川弘文館発行 | 1992 | | | |